平成２２年１１月１８日

「この人に聞く」成熟社会と建築

工学院大学　教授
藤森　照信

「現在の東京に見る、明治期の都市計画の歴史的価値」について聞いた。

■ 都市の動きを計る

東京の明治期から現代までの都市計画を研究した中で、未完のプロジェクトを紹介します。

僕らは日常的に都市の動きについて何となく知っていますが、科学的に何か検証する方法はない。そこで、何か計る方法が必要だと考え、都市におけるいろいろな動きの総和として、結局、地価がその総和を示すのではないか。言い換えれば、資本主義の基本とも言えるのですが、その実用性だけではなく、イメージも含め、地価こそが、ある場所の、あるときの状況を最も正確に示すのではないかと考えたわけです。そして、地価というものは地図上に全部ありますから、地図の上に地価の等高線をかけばよい。そうすると都市の動きが如実にわかる。

そこでまず、日本で初めて政府が地租改正により、地価を決めた、明治 11 年の等高線を描いたら、頂部が神田から日本橋、京橋、新橋、それから海側まで下がっていくまでの地価の等高線となりました（図参照）。次に地価が公表されたのが昭和８年で、この時期には、もう頂部が銀座へ移っています（図参照）。

現在、数年に一度公表される、日本全国の地価をもとに、全国の等高線図を描き、それを更新していけば、政策がどういう効果を上げたかもはっきり分かる。これは都市研究の一種の基礎的なデータになり、日本の都市、商店街、オフィス街、交通網、地下鉄の研究、あるいはそのための政策を立てるにせよ、すべての基礎になると考えたのです。

■ 産業（生産）と都市（消費）のバランス

産業とはわかりやすく言うと工場で、生産する場所です。都市とはその生産されたものを消費する場所です。

都市、建築、あるいは時代を考えるとき、いつもつくる方、産業の側に関心があっても、それを消費する側への関心は余りない。今でも政策上、つくることへ多く投資しても、使うことへの投資は余りしません。考えてみたらおかしなことで、本来、生産と消費が必ずパラレルでなければならないはずです。

要するに製造する場所の論理は科学的で、合理的で、機能的で、大量で、均質です。ところが消費する場所の論理は正反対です。これは銀座などを見ても、とても個別的で、にぎやかで、わい雑で、変わりやすく、まことに感覚的です。つまり、工場でつくったものを売るには、工場とは全く正反対の性格の場所でしか売れないのです。

銀座も明治政府により計画的につくられ、銀座はそのときの蓄積で今でも生きているわけです。そして銀座に引き続き、オフィス街も政府主導により政策的に整備されていきました。

■ 都市計画における山手線

交通計画というものも重要な計画で、一番成果が上がったものは山手線です。

山手線のような鉄道を持った都市は世界のどこにもありません。都市の中心部を囲むように円形になっていて、そこから私鉄も含めてあらゆる鉄道が出ている鉄道はないのです。似たようなものはシカゴなどにありますが、その都市の骨格として機能していない。

都市にとってたくさんの拠点が周辺にでき、あるいは地方から来た時のそれぞれの拠点にできる。そして都市の主要な各機能は、住宅地も含めて、その外を回る山手線の中にある。世界的に見て理想の市街鉄道であり、日本の都市、国土計画が誇るべきものであると言えます。

日本の都市、特に東京は、世界的に言えば非計画の極みのように言われ、日本の都市から学ぶものは何もないと思われてきました。そして手本と言えば常に欧米の都市が挙げられる。しかし、歴史的に振り返ると、山手線のようなものはすごく世界に誇れるし、逆に世界が学ぶべき蓄積をつくり出しているのです。

■ 都市を引っ張る力

ここで興味を持つのが、都市を引っ張る力というものです。これは政策とも言えますが、骨組みとか用途をどうするかとは別に、新しい方へ都市を引っ張りたいときがあり、これは戦術的な都市計画と言えます。

都市をある方向へ引っ張るとき、その先は当然、余り人が行きたくない場所に、大きな戦略として都市を引っ張ろうとします。千里を遠しとせずに行く場所は、大体欲望充足的な場所でして、例えば、江戸幕府は遊廓と歌舞伎を使いました。つまり、男の欲望と女の欲望の力を借りて、都市を引っ張ったのです。

明治政府も遊廓を使います。そして戦後、売春禁止法によって遊廓が使えなくなると博覧会を使い、その次はディズニーランド。こうして見ていくと、千里を遠しとせずという施設の種類がどんどん限定されているのです。

万博はもうダメ、ディズニーランドも二つは要らない、それで今、東京都が困っている。そこで、千里を遠しとせずで唯一残っているのが、ばくちなのです。それでカジノをつくるということを本気で考えましたが、今現在具体化していない。だから、もしだれかが千里を遠しとしない施設で、まだ使われていないものを考えたら、きっと日本の都市を救う力になると思います。

■ 丸の内、銀座、日本橋といった都市機能の展望

僕も銀座あたりがどうなるかは、一時やはりこれはだめかなと思ったのですが、今でも何とか生き延びている。それは日本の社会が決定的に変わらない限り、そのまま行くのかなという気がしています。いわゆる近代的な 20 世紀のシステムがひっくり返らない限り、やはり基本的な構造は変わらないという感じを最近は持っています。

それは、都市というものは巨大な鉄の玉みたいなもので、ものすごい慣性力を持っていて、転がり始めると、周りが変化してもなかなか変わらない。情報化といった都市的に捉えどころのない要素があったとしても、やはりそういう力は大きいのではないかと考えています。